

試験日 ： 2026 年 2 月 21 日（土）
入試種別 ： 大学院入学試験(4 月入学)修士課程 春期試験
学部・研究科： 社会学研究科 社会学専攻 ジャーナリズムコース
科目名 ： 日本語

解答又は解答例

第 1 問

問 1（漢字の読み）

- 1 おおやけ
- 2 きせい
- 3 ふかぶん
- 4 りごうしゅうさん
- 5 せんべん

問 2（漢字の書き取り）

- ア 式典
- イ 規模
- ウ 対照的
- エ 典型
- オ 維持

問 3（指示語の解釈）

解答例：欧米の学生歌が学校ごとに固有の歌ではなく、かつ自然発生的に歌われるようになったものであるのに対し、日本の校歌は各学校が公式に制定したものであるという意味で。

採点基準：

欧米の学生歌の特徴：7 点

日本の校歌の特徴：7 点

解答文の構文の正しさと簡潔さ：6 点

問 4（箇所説明）

解答例：世界の国々で制定され、歌われる国歌と、日本の学校で歌われる校歌は、近代的な共同体意識に呼応して組織的に作られたものである点において似ている。

採点基準：

国歌と：5 点

校歌が：5 点

近代的な共同体意識に呼応して組織的に作られた：10 点

第 2 問（長文要約）

解答例：

「言葉が思考を規定する」というサピア＝ウォーフの仮説は、強い仮説である言語決定論と、弱い仮説である言語相対論に分かれる。

言葉が人の認識のあり方を決めるという言語決定論は、ふたつの点から受け入れ難い。ひとつは、人は言葉によってのみ思考をしているわけではないからであり、もうひとつは言語決定論が、その言葉が持っている特徴の一部を過度に一般化する傾向があるからである。

言語相対論は、言葉が人の認識の仕方に影響を与えるというものであり、言語決定論に比べると受け入れやすいと言える。言語の違いが認識の仕方の違いを生むこともあり、また言語の変化がひとの認識に変化を与えることもできるかもしれない。

（295 字）

採点基準：

字数オーバー：マイナス 5 点～10 点

200 字以下：マイナス 15 点

決定論の定義：5 点

決定論の問題点：10 点

相対論の定義：5 点

受け容れやすさについて：10 点